

帝京大学ラグビー部 全国大会 9 連覇から

新年を迎えると高校生や大学生の全国大会等が目白押しです。駅伝、スキー、スケート、サッカー、ラグビー、バスケットボール、バレーボールなど、連日、テレビ中継されています（今年度は予定どおり行われるか心配ですが・・・）。高校では3年間、大学では4年間と力の限り取り組んできた生徒や学生の姿、試合が終わった後の選手の涙を見ていると心を打たれます。試合等に出て活躍した選手も、一度も脚光を浴びずに練習の中でしか、自分の存在をアピールできなかった選手もいたでしょう。選手一人ひとりや各チームには様々なドラマがあったことでしょう。そんな全ての選手の気持ちを考えると、試合が終わった後、見ている側も目頭が熱くなります。その中で特筆すべきは、帝京大学の全国大学ラグビー選手権9連覇ではないでしょうか（2009～2017年度、ここ2年間は優勝から遠ざかっている）。毎年、メンバーが入れ替わる学生スポーツで9連覇することはとても難しいと思います。手塩にかけて育てた選手が翌年にいなくなるわけですから・・・。

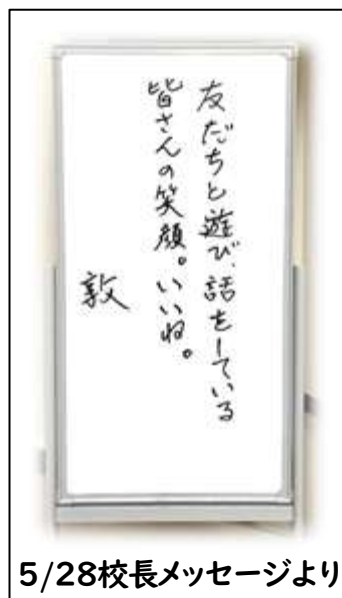
指導しているのは同大学教授岩出雅之先生です。中学、高校の先生を経て同大学のラグビー部の監督となりました。帝京大学を14年間指導し、初めて日本一になった苦勞人です。私は彼を一人の教育者としても尊敬しています。彼の著書「信じて根を張れ！楕円のボールは信じるヤツの前に」の中で次のように述べています。

私の経験からいうと、本当に信じて走っていれば、ボールも自分で走った先に落ちてきます。

同じように、信じていれば、楕円のボールも彼ら（部員）も私の手の中にやってくる。そう考えています。

監督が部員を信じる力は、とても大事です。指導者の選手への信頼感は、選手同士の信頼にもつながります。親が子どもを信じる。上司が部下を信じる。同じことです。それなのに、少しでもうまくいきそうにないと、大人は信じることの大切さを忘れてしまいがちですね。信じてもらえなかったほうは、途端にモチベーションが低下します。例えば、子どものラグビースクールなどで、よくこんな光景が見られます。試合の前に、

コーチが子どもを集めて説明しています。「相手がこう来たら、こう行けとか、こうなったらこうやれ」と。大人は唾を飛ばして懸命にことばをつなぎますが、聞いている子どもたちがそのことを理解しているのか、納得して取り組もうとしているかどうかを確かめる気配はありません。子どもにも学生にも長い説明や説教は嫌われます。さらにいえば、転ばぬ先の杖を用意することそのものが、成長を妨げます。それなのに、大人はなかなか子どもの自ら伸びる力を信じることができません。



そもそも、ラグビーは「考えるスポーツ」です。試合中に静止する時間がふんだんにあるので、その間に「考える力」が試されます。帝京の選手たちによると、「さっきスクラムを押されたのはなぜだろうと考えて、次はこうやってみようかと考えています」と言います。**自ら考えようとする時間を、大人は奪ってはいけません。**

帝京大学ラグビー部員は、自らの意思で地域貢献の一環で地域の清掃活動や幼稚園訪問等を行っています。地域の方は、そんな彼らの姿を見て、帝京大学ラグビー部を応援してくれるそうです。幼稚園の訪問では、子どもたちと遊ぶそうです。子どもたちも体の大きな力持ちのお兄さんたちと遊ぶのは楽しいでしょうね。運動部という上下の関係が厳しいのは普通ですが、グラウンド整備やトイレ等の掃除は上級生の分担だそうです。合宿所に入所する新入生の荷物持ちは、4年生などの上級生の仕事です。新入生が思いきって練習に打ち込めるように上級生が雑務を行っているのだそうです。このような姿を見ている後輩は、上級生になったときに下級生の負担を少なくするためにどうしたらよいかを考え、実行するのだそうです。そのため全国から有望な新入生が毎年、入学してくるようになったそうです。

試合中に岩出先生が画面に映り、ニコニコ笑っていることがありました。先生はそのとき、「あいつら、また楽しませてくれるな」とワクワクしているそうです。いい準備をすると、安心できますが、完璧な準備は無理です。苦しい局面でも選手を信じ切っています。このように選手を信じてくれる監督だからこそ、思い切ったプレーが生まれるのでしょう。それが、この大学の強さなのでしょう。

現在、私たちは、今まで大人たちも経験したことがないような危機の中、コロナウィルス対策等で落ち着かない日々を過ごしています。そんな中、生徒は不平不満を言うこともなく、自然体で様々なことに取り組んでいます。私たちは生徒のよさや素晴らしさに気付き、信じ、認め、ほめることが、最も大事なのではないかと感じています。**子どもの力の偉大さをみくびってはいけません。**そのことを学校現場でひしひしと感じ、頸城中生徒を誇りに思っているところです。



PTA 総会議案の書面審議・承認ありがとうございました

先に、保護者の皆様から書面で審議していただいた、「令和元年度事業報告」、「令和元年度会計決算報告」、「令和元年度会計監査報告」、「令和2年度役員の承認・委嘱」、「令和2年度事業計画案」、「令和2年度会計予算案」、「PTA 活動保障制度への加入について」、「PTA 会則の改正案」、「PTA 慶弔規程、旅費規程」について、いずれも承認多数であったことをご報告いたします。（ご提出いただいた書面審議用紙226枚中、全議題について承認が226、非承認は1つもありませんでした。※PTA会員数は、保護者208、教員が22で合わせて230です）。

なお、コロナウィルス感染症の関係で、年度当初に予定された活動計画を変更する場合があります。今後のPTA活動につきましては、後日各部門よりお知らせいたします。ご協力ありがとうございました。



学級花壇の花植え ～地域の皆さんと共に～

生徒会環境委員会の主催による「学級花壇コンクール」の一環として、6月3日（水）に学級花壇への苗植えを行いました。昨年に引き続き区青少年育成会議の地域コーディネーターの方をはじめとする地域の皆様方を講師にお招きし、上手な苗の植え方や花壇の手入れの仕方を教わりながらの協働作業となりました。

どの種類の苗を植えるか、植え方のレイアウトはどうするか、事前に学級で相談して決めました。当日は、環境委員を中心にボランティア生徒も加えて合計40名ほど参加し、手際よく丁寧に苗を植えました。今後は、約1か月後に行われる「学級花壇コンクール」に向け、学級ごとに花壇の世話を行っていきます。

学校再開後、頭城中でも多くの行事が中止となっています。人と人とのリアルなつながりは教育の土台であると捉え、今後も可能な範囲で学校行事を計画していきます。



新聞でも紹介されました！

上越市立頭城中で、3日、花の植栽活動が行われた。各学年、地域の皆様方を講師にお招きし、上手な苗の植え方や花壇の手入れの仕方を教わりながらの協働作業となりました。

花の植栽 交流育む

上越市立頭城中で、3日、花の植栽活動が行われた。各学年、地域の皆様方を講師にお招きし、上手な苗の植え方や花壇の手入れの仕方を教わりながらの協働作業となりました。

花壇として使われた。環境委員長の木井朝香さん（3年）は「みんな明るく作業をしていて良かった。春に苗を植えて、長くきれいに咲くように管理したい」と話していた。生徒会と地域住民が花を植える生徒と地域住民



上越市立頭城中で、3日、花の植栽活動が行われた。各学年、地域の皆様方を講師にお招きし、上手な苗の植え方や花壇の手入れの仕方を教わりながらの協働作業となりました。

上越市立頭城中で、3日、花の植栽活動が行われた。各学年、地域の皆様方を講師にお招きし、上手な苗の植え方や花壇の手入れの仕方を教わりながらの協働作業となりました。

赤や黄色 学校華やか

環境委員の生徒ら約40人と、地元町内会や老人会の会員ら約10人がマスク着用で参加。生徒は住民から植え方を教えてもらいながら、ハートやクラス名などをかたどるように赤や黄、黄色の花々を植えた。

上越市立頭城中で、3日、花の植栽活動が行われた。各学年、地域の皆様方を講師にお招きし、上手な苗の植え方や花壇の手入れの仕方を教わりながらの協働作業となりました。

新潟日報 令和2年6月9日（火）朝刊16面より

上越タイムス 令和2年6月9日（火）6面より

花いっぱい、笑顔
いっぱい、そして、思いやりい
っぱいの学校にして
いきましょう。



「共育」にご協力ください ～学校・家庭・地域で育くむ地域の宝～

今から10年以上前の平成18年、59年ぶりに教育基本法が改訂されました。その中で、今までになかった第13条「学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。」が新設されました。

教育の営みは大きく3つに分類できます。①学校教育(学校が担う部分)、②家庭教育(家庭が担う部分)、そして③社会教育(地域をはじめとする社会全体が担う部分)です。以前は、教育の大部分を「①学校教育」のみが担っていた時代もありました。しかし、現代社会において、子どもへの教育を学校のみで担うことは非常に困難な状況にあります。教育基本法の改正は、こうした背景を踏まえて行われています。

さて、頸城中では教育目標の達成に向け、「生徒」・「学校職員」・「保護者や地域」それぞれの努力事項を掲げています。これを基に、保護者や地域の皆様にご協力いただきたい点を以下に記します。健やかな子どもたちの育成に向け、是非「共育」活動にご協力をお願いいたします。

保護者・地域の皆様にご協力いただきたいこと

- ☑ 子どもが決まった時間に家庭学習ができるよう、家庭内の学習環境を整える。
- ☑ テスト前や長期休業中は学習計画表を点検し、テスト結果を親子で振り返る。
- ☑ 進路について日頃から親子で話し合い、学習に目標をもてるようにする。
- ☑ 法律や学校のルール、家庭のルールを確認し、家庭内でも守らせる。
- ☑ いじめや暴力について親子で話題にし、いじめを許さない意識を高める。
- ☑ 提出期限に間に合うよう、宿題やプリント類を提出させる。
- ☑ 学校行事やPTA活動に積極的に参加する。
- ☑ 子どもに地域行事やクリーン活動への参加を促す。
- ☑ 大人から積極的にあいさつや声掛けをする。
- ☑ 親子で話し合ってメディア使用のルールを決め、それを守らせる。
- ☑ 「早寝・早起き・朝ごはん」を習慣づける。
- ☑ 22時30分にはすべてのメディアのシャットダウンに家族全体で取り組む。



6月～7月の学校行事予定の変更について

日程変更する学校行事等	中止する学校行事等（元の日程）
・ 1年生正式入部……6月12日（金） ・ 生徒総会……6月17日（水） ・ 第1回定期テスト……7月 6日（月） ・ 1年歯肉炎予防教室（期日未定） ・ 1学期終業式……7月31日（金） ・ 期末面談……8月3日～7日の週で	・ 人権講演会（6月15日） ・ 地区陸上大会（6月16、17日） ・ 漢字検定①（6月19日） ・ 区PTAバレーボール大会（6月20日） ・ 各種地区大会（6月22日、26日、27日） ・ 県通信陸上大会（7月3日、4日） ・ 児童委員・民生委員懇談会（7月17日） ・ 県総体（7月18日～20日） ・ 地区吹奏楽コンクール（7月19日） ・ 2年職場体験学習（7月27日～31日）

※今後の状況により、予定はさらに変更となることがあります。ご了承ください。